

ぱっちりクリアな瞳に導くアイケアサプリメント新素材 「紅紫菊」に眼の糖化抑制とエイジング予防の有効性を発見

コウシギク

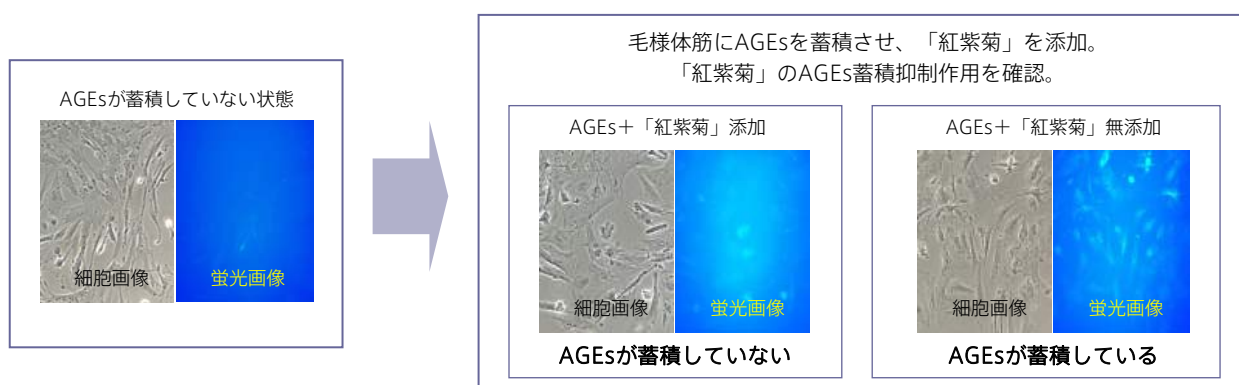
株式会社ポーラ（本社：東京都品川区、社長：鈴木 弘樹）は、新潟・山形を中心に栽培されている「紅紫菊（ポーラオリジナル成分クリアピントシアニンを含む）」に、①眼のピント調節機能を担う毛様体筋の糖化抑制効果、②ピント調節機能の改善効果、③眼の濁りの改善効果、④眼の緊張度の改善効果が確認され、加齢に伴う眼のエイジング予防に役立つことを発見しました。

「紅紫菊」は、その鮮やかな紅紫色の元となるアントシアニンを多く含み、中国では菊の花は眼病予防に用いられてます。アントシアニンはブルーベリーやビルベリーに含まれ、アイケア分野で広く用いられていますが、「紅紫菊」は、アントシアニンの含有量が多いことから、アイケア分野の新たな素材として期待されます。

尚、クリアピントシアニンを含む「紅紫菊」は、7月に発売予定の製品に応用します。

1. クリアピントシアニンを含む「紅紫菊」の糖化抑制効果

「糖化」は眼病の重要因子として、ピント調節機能や眼の混濁度などにも関係すると考えられ、近年着目されています。今回、ピント調節機能の核となる毛様体筋の糖化に対する影響を検討しました。その結果、「紅紫菊」には毛様体筋中の糖化物質（AGEs）の蓄積を抑制する効果があることを確認しました。



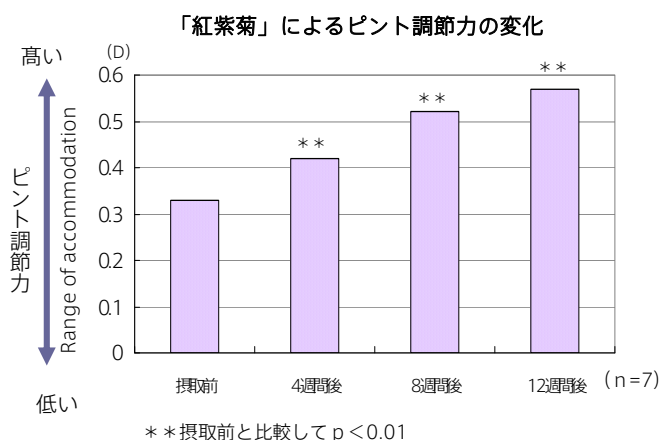
2. クリアピントシアニンを含む「紅紫菊」のピント調節機能改善効果（1）

「紅紫菊」を含む錠剤の摂取により、近くを見るときピント調節力（Range of accommodation）が摂取前の 0.33 ± 0.08 から、摂取4週後は 0.42 ± 0.09 、摂取8週後は 0.52 ± 0.16 、摂取12週後は 0.57 ± 0.27 と、有意な改善がみられました。

また、摂取12週後はピント調節力が76%改善しました。これは、年齢に換算*すると-5.1歳という数値になります。

眼のピント調節は毛様体筋の働きが重要な役割を担っていますが、今回のピント調節機能改善効果は、「紅紫菊」の毛様体筋の糖化抑制効果の影響が関係していると考えられます。

* Lockhart TE et al., Ergonomics, 53, 2010より算出

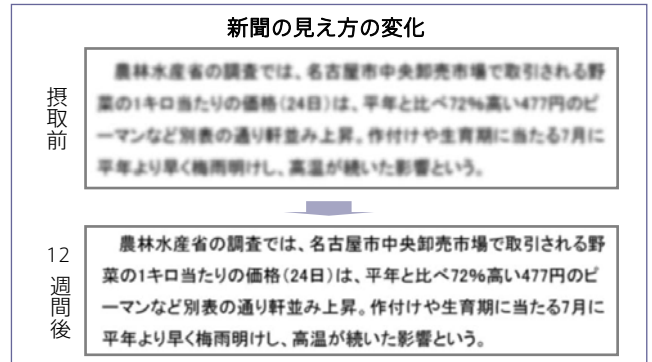
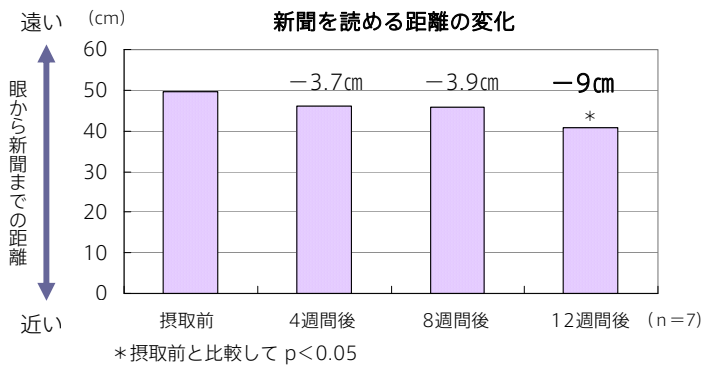


【報道関係のお問い合わせ先】

株式会社 ポーラ 宣伝部 TEL 03-3494-7119 / FAX 03-3494-6198 〒141-8523 品川区西五反田2-2-3

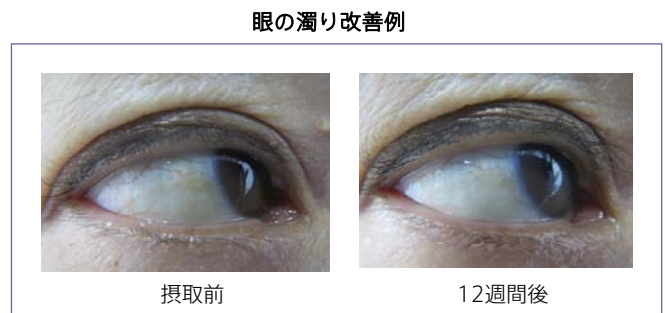
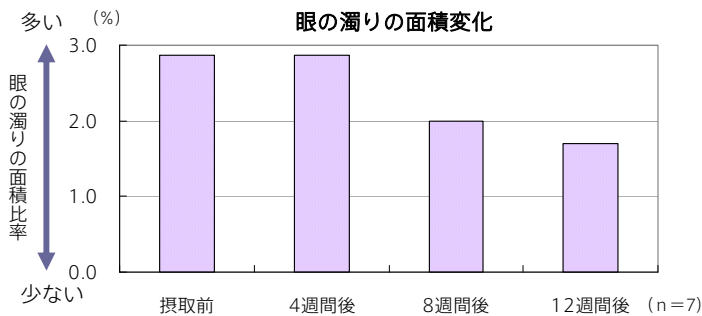
2. クリアピントシアニンを含む「紅紫菊」のピント調節機能改善効果（2）

「紅紫菊」のピント調節改善作用を、新聞の視認性で検討しました。新聞を眼から徐々に遠ざけていき、新聞の一番小さい文字が楽に見えるようになった距離を測定したところ、摂取4週後では-3.7cm、摂取8週後では-3.9cm、摂取12週後では-9.0cmとなり、近くがより見えるようになることが確認されました。被験者には眼から20~30cm程度離れた状態の新聞の見え方について、11段階の画像から選択してもらったところ、明らかに新聞の文字が見えやすくなっていました。

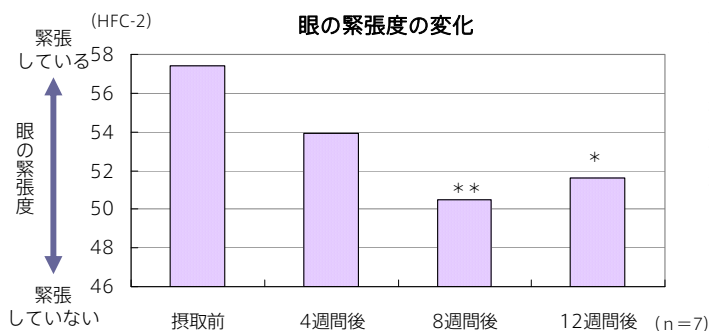


3. クリアピントシアニンを含む「紅紫菊」の目の混濁度改善効果

目の混濁度は、水晶体等のタンパク質の変性などが大きく関与し、糖化も関わっています。目の混濁度(目の濁りの面積率(%))の平均値は摂取前が2.86に対して、摂取4週後は2.86、摂取8週後は2.00、摂取12週後には1.70となり、摂取前と比較して40%減少するという改善効果が得られました。



4. クリアピントシアニンを含む「紅紫菊」の目の緊張度改善効果



近くが見えにくくなると、毛様体筋が緊張し、目の疲れを感じやすくなります。近くを見るとき目の緊張度 (HFC-2) は摂取前で57.4±4.5であったのが、摂取4週後53.9±6.2、摂取8週後50.5±1.8、摂取12週後では51.6±3.2となり、摂取8週後以降、有意な改善がみられました。

本試験では、紅紫菊の効能を評価するために、50代以上健常女性に12週間「紅紫菊」を含む錠剤を摂取してもらい、その前後での目のエイジング症状(見えにくさ、濁り、疲れやすさ)の変化を検討しました。

その結果、見えやすさの指標であるピント調節力 (Range of accommodation) 、疲れやすさの指標である目の緊張度 (HFC-2) の有意な改善が確認された他、目の混濁度の低下も確認されました。

これらの結果から、紅紫菊の長期反復摂取により50代以上女性のピント調節機能や目の混濁度など加齢に伴う目のエイジングの改善に役立つことが示唆されました。

また、試験期間中に試験に起因すると考えられる有害事象は確認されませんでした。

これら研究は、慶應義塾大学医学部(化学教室)教授 井上浩義氏と共同で行われ、2014年11月1日~2日に大阪で開催される「第21回日本未病システム学会学術総会」にて発表される予定です。

【検査方法】 50代以上健常女性7名(平均年齢:57.1歳±1.9歳)を対象に「紅紫菊」を含む錠剤を12週間投与し、試験開始前から4週間毎に12週間後までのピント調節力や目の混濁度、緊張度の変化をオートレフラクトメーター (Speedy i) にて評価。